



樹 妙 ば よ り

No.131
2015.09

慈悲喜捨

月影の いたらぬ里は
なけれども
眺むる人の 心にぞすむ
法然上人

この歌は念仏の心を読んだ万人への教えで、浄土宗歌であり、本校朝礼でも歌われる意味ある御歌です。ちなみに、大阪にある上宮高校の日本一短い校歌にもなっています。

歌意は、「月の光が届かない人里などはないが、月を眺める人の心の中にこそ月（月の影・月の光）は、はっきりと存在してくる」。

月の光は阿弥陀仏の救いので、すべての里に届かないことがない。従って、阿弥陀様の救いは万人を対象としている。ただし、自分の目で見、心でみて、認識しない限り、月はないものと同じです。このように見ることによって、初めて月は存在するのです。見れば必ず見る人の心にまで、阿弥陀様の慈悲は届くのです。見さえすれば、心で思さえすればよいのです。阿弥陀様のすべての人を漏らさず救うというお誓い（本願）は、月の光のように誰にもどんな里にも平等にふり注いでいます。しかし眺めた人にしか月の光の存在が分からないように、

南無阿弥陀仏と念仏を称えた人だけが阿弥陀様の本願（往生）ことができるという教えでもあります。世に経れば
もの思ふとしも
なけれども
月にいくたび

眺めしつらむ

『和漢朗詠集』具平親王
長く生きてくると、もの思ひしているわけでもないのに、さやかな月の光に心奪われて、幾たび月を眺めやうたことだろうの意。

「眺む」という古語はただ遠い所にぼんやり視線を遣るという意味だけではなく、物思いに沈んでぼんやりとみる。また、物思いにふける、そのような時の心中を表す言葉でした。例えば「月を眺む」という時は、月に視線を遣りながら、もの思いに沈んでいることを表すことがたいへん多かったのです。具平親王の、この歌は、明るい秋の月のもとで、月と、もの思いという組み合わせで、憂愁の思いというわけでもなく、ただ月光の魅惑に放心してしまふような心持ちを歌った月光讃歌でしょう。

九月二十七日は十五夜、中秋の月です。「眺め」てみましよう。

教頭 尾内 正彰

おもいきり しあわせになること

明照学園理事長
野口 秀樹



樹徳生のこの夏の活躍、こんなことがありました。第一シードを破った高校野球。卓球、相撲、陸上、少林寺拳法部は県大会を制覇しインターハイ出場、将棋部も全国大会出場、海外科学研修には四十六名が二班に分かれて出発し、滞在場所はUCCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の大学寮、世界各国の留学生と一緒に十日間生活を致しました。連日の部活動、補習授業そして合宿、高校生は頑張りました。中学生も負けてはおりません。陸上、卓球、柔道、ダンス部は県大会出場、群馬県合唱コンクールでの銀賞、NHK全国中学校音楽コンクールでの銅賞、さら

に Summer Special Learning 2015 の成功、富士山高原学校など、見事でした。そして、暑い夏が終わり、皆元気に第二学期が始まりました。

八月十七日の第二回目の登校日に高校生全員を前にして、私は大きな声で話をしました。「二学期は君たちの今までの人生の中で最高の二学期にする。今まで経験したことのないくらい素敵な二学期にする。そのために準備をしないでならない。今日から助走を始めてください。」

私の役割は生徒達を元気にすることです。辛いことがあっても、苦しいことがあっても、生徒達が前に向かって進んでいこうとする勇気を奮い立たせることなのです。

それを実行するためには、私はいつでも元気でチャレンジ精神を持ち、感謝と喜びのなかで毎日を生きなければなりません。私も自分の役割を果たすために、毎日自己改革を進めているのです。

ここだけの話ですが、私だけが特別元気で、生徒達

が乗り遅れてしまう、そんな空回りもあるのです。

「中だるみの二学期」「中だるみの二年生」、こんな言葉を聞いたことがあるでしょう。誰がこんな無責任なことを言い出したのか。本当はこの二学期の取り組み次第で一年間が変わるのです。教員も生徒も「中だるみの二学期」そんな気分

に流されています。困るのであります。それぞれが自分にマイナスの自己暗示をかけてしまっている。自己暗示をかけるなら、ぜひともポジティブな自己暗示にして欲しいところです。

真実を申しあげます。「勝負の二学期」なのです。誰も彼もが「勝負の二学期」、これを樹徳高校での合い言葉にしたいのです。

さて、終戦七十年という節目の年の夏に話題になった「玉音放送」。この草案の下書きをしたといわれる東洋思想家の安岡正篤先生（故人ですが、未だに慕う方達が沢山おられます）がよく使われる言葉があります。

「縁尋機妙」

これは「良い縁がさらに

良い縁を尋ねて発展してゆく様は誠に妙なるものがある」というものです。

私も六十歳を過ぎて、良い縁が良い縁につながっていくことをしみじみ実感しております。ある方と知り合い、親しくさせて頂いていると、その方から私の人生をさらに豊かにしてくれる別の方をご紹介して戴ける。そして私もその方の役に立てる。するとまた次の素敵な縁がその先で待っている。不思議なのですが、最近の私はこの縁で支えられているのです。

ところが、若い頃にはこのことが分からず、一人で生きていくような顔をしておりました。今となっては汗顔の至りです。

私にとって出会いは格別のものです。そして、人との出会いばかりではなくて、書物との出会いも全く同じなのであります。良き人との出会いと同じように、良い書物との出会いを大切にしていきたいと常々思っております。

先日も素晴らしい出会いをしました。たまたま出かけた施設に図書コーナーが

ありました。そこで手にした墨画詩集、印象的であり

ますが、書かれている絵も添えられている言葉もピンと来ないので。ですが、なぜか「ページをめくれ」とインナーボイスが聞こえるのです。ページを開いてみると書かれた言葉に釘付けになりました。結果的に著者の言葉に感動し、彼の別の作品を読みたくなってしまいました。

タイトルは『あたり前の愛』、著者は、ひろはまかずとしという方です。おもいきり

しあわせになること

生まれた時に天があなたに命令した事といえはそのくらいのものです

生徒達に知らせたい言葉です。

「あなたと一緒にだと

元氣十倍 勇氣百倍」

これは私が言われた言葉です。

私達はおもいきり幸せになることが宿命で、その能力を授かっている。そう信じていきたいものです。

合 掌

朝の祈り

「今日一日 笑顔絶やさず
皆様に親切がでますように」

無情の世界を生きる

ある人が死んだ。そして、骨になった。

言葉の研究を続けてきた私にとって、その死は衝撃的なものだった。なぜなら、人が死んだ悲しみを語る言葉がなかったからだ。言葉による記述を越えた世界が存在することに気が付いた瞬間だった。つまり、言葉とは「道具」ではないということである。良くも悪くも使える道具。同時に、言葉とは不十分な存在であることにも気が付かされた。人は、この世界に在る物事に対して、正確な言葉による記述を試みる。しかし、言葉による記述に終始してしまふと、そのものを見ることも、それらに触れる喜びを感じることも出来なくなってしまう。在る物事の言葉による記述は、その在る物事に部分的なフレーム（理解の枠組み）を

与えることであり、全体を捉えることにはならない。さらに言えば、言葉によるフレームによって、我々は在る物事そのものの実在を得られなくなってしまう。

絵画を想像してみよう。あなたは絵画のすべてを言葉で語り尽くすことができらうか。それと同じことが言える。つまり言葉による記述は、在る物事を部分的に写像しているにすぎないということである。だから、絵画の全てを完璧に言葉で表現することなどできないのだ。それが、言葉の不十分さである。

人は見たものを言葉で記述する。しかし、「大切なものは目に見えない」「愛」とか「幸せ」とか、大切なものは目に見えない。しかし、その目に見えないものを言葉で記述し、部分的な解釈を与えるのではなく、むしろそういった目に見えないものにそのまま触れる喜びを感じることが大切で

ある。それが、生きることの一つともなる。

言葉・記号による記述に一生懸命になるのではなく、大切なことはその逆で、在るものに触れる喜びを感じることである。その深さを会得することで自分自身の生を豊かにできる。

目に見えないものを感じ取るためには、自身の「感度」を上げなければならぬ。感度とは、外界にある、目には見えないものを心で感じ取る力である。「想像力」とも言える。日々をただ生きるのではなく、感度を上げたその心で在るものに触れる喜びを感じる努力をしなければならぬ。

二十七年間生きてきて思うことは、楽しい・幸せと思えることは自分で見いださなければならぬということである。一方、つまらないこと・幸せと思えないことは探さなくても自然と見えてしまふ。他者の評価に關してもそうである。世の中には、他者の悪いところばかりを目敏く見つけ、その他者を非難する人がいる。そんな生き方は楽しくない。

人は皆、誰かに愛されたと思う。子どもは、先ず両親から無償の愛をもらう。しかし、それがかなわない子もいる。しかし、愛

とは何か。エーリツヒ・フロムは、「愛とは、与えるものである」と言った。愛には、能動性があるということである。愛とは、人に与えるものという意味において美しいものである。「なぜ自分は愛されたいのか?」「愛を与えてほしい」ということではない。「なぜ自分は愛されたいのか?」という考えは捨てなければならぬ。つまり、人に「愛されたい」ではなく、人を「愛する」ことが大切なのである。

この世界は、感情を持たない「無情」の事物に満ちている。たとえ人が死んでも、何の関係もなく太陽は昇り、沈んでいく。生きとし生けるもの全ては、この無情な世界に存在せざるを得ない。そして我々は、その無情さに価値を与え、心を慰める。しかし、無情であることは決して悲しいことではない。花のもつ無情さは、たしかに、美しい。

私自身、生きることが辛くなった時期があった。何のために生きれば良いかが分からず、底なし沼に

落ちていくような感覚だった。やり場のない怒りと寂しさがばらばらに砕け散り、その破片が心に突き刺さるようでもあった。しかし、そのある人の死は教えてくれた。この世に生を受けて以上、生きる努力をしなければならぬ。自分を変えようとするのは他の誰でもなく、自分自身であると。

我々は、無情の世界を生き延びている。その世界に気づきを得て、価値を与えていく。人を愛することに能動性があるように、生きることも能動性がある。自分を変えようとするのは自分自身であり、己の生を豊かにすることも自分自身である。生きることは、自己に委ねられている。こうして、私は今を生きている。

(英語科 田島 珠未)



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」

9月の行事予定

- (1)アートスクール「編み組教室」
主催 野村ナナ子さん 2日・16日(水)
- (2)七草ゼミナール塾
主催 上野文雄さん 17日(木)
- (3)生け花展示会 (小原流)
主催 中島美智子さん 25日(金)~ 27日(日)
- (4)販売実習 (5・19日の各土曜日を予定)

夏季海外科学研修

七月十二日から二十一日に、夏季海外科学研修が実施されました。多数の生徒が十日間の行程を終え、帰国しました。生徒の感想文を紹介します。

『海外研修で得た

新しい自分』

二年K組 新開 輝



私が今回の海外研修に参加した理由は兄の影響が大きい。私の兄も在学中にこの海外研修に参加した。帰国後、兄はしきりに「このままではまずい。考え方を変えなくては。」と言っていたが、そのときは意味が分からなかった。だが、この研修以降、兄は勉強はもちろん、物事すべてに意欲的に、前向きに取り組むようになった。この十日間でマイペースだった兄を変えたのは何だったのか、自分もそれを体験できたらと思っただけだ。

もちろん、アメリカでは日本語は通じない。だから、入学後は英会話部に入った。自分なりに意識して英語を勉強してきた。テストの点数も上がってきたので、自信があった。研修先では、主にカフェテリア(食堂)で、現地の学生たちと関わりを持つことができた。しかしそこで私は、初日にも関わらず、出発前にあった自信をなくす。まず、第一に、話しかけられない。頭では行こうと思っても、恥ずかしさ、不安から声が出ない。結局、静かに友達同士で座った。その後、無言で少し食べたが、これでは来た意味がない。勇気を出して話しかけてみることにした。最初の一言はとても緊張した。そんな自分とは対照的に声を掛けた学生はあっさりとした笑顔で返事してくれた。話し始めたら意外と話題が尽きない。互いのこと、国、スポーツ、趣味、といった具合に。彼の友人も後から加わり、一緒に写真を撮ったりとても楽しい時間を過ごせた。そして気がつけば、不安は全くなくなっていた。

今回の研修の中で一番大変だったのは授業だ。私たちが日本人だからといって、日本語で説明してはくれない。授業の全てが英語のリスニングだ。私はしばしば先生が何を言っているのか分からなくなった。わからないまま研修を終わらせるなんてもつたいない。積極的に質問するよう心掛けた。その努力が認められてクラスで賞をもらうことができた。

私はこの十日間ほど英語や自分について真剣に向き合ったことはなかった。初日のあの一步を踏み出せなかったら、ここまで充実した研修にならなかっただろう。積極的に活動した今なら兄の言葉の意味が分かる。アメリカで見学したスピード、風力発電のパームスプリングス。その場に立つと、自分のちっぽけさを感じた。でも、ちっぽけなりに、これから大きく成長するには何が必要か、考えながらまた一步、歩き出して行きたいと思っている。

『海外研修を終えて』

二年S S組 長岡明咲



まず、この研修を通して学んだことは、積極的に行動することの大切さです。私は、現地の学生のたった一人に話しかけるのさえ緊張してしまい、カフェテリアでは話しかけようかと迷いながら、結局立っているだけという場面がありました。藤を打ち破り、自らが一步踏み出して会話ができた時は、心の重荷がふっと軽くなり、積極的に行動することとは大切だと感じました。また、一方で自分の役割に責任を持つことの難しさも学びました。今回、リーダーを担当しましたが、自分から動かなくてはいけないと分かっているにもかかわらず、自分の思うように自分自身が行動できないことも多々ありました。

しかし、なんと言っても今回の研修の中で痛感したことは、自分の英語力の乏しさです。日本人はパーティーテストが得意だから自分のスピーキングレベルより上のクラスに入ってしまったというのはよく耳にしますが、私の場合もその典型的なパターンでした。現地の学生と積極的に会話しようとして決意しているにも関わらず、相手の話が部分的にしか理解できず、思っていることを上手く伝えられない。この経験は私自身、大きな衝撃でした。そこに追い打ちをかけるように合同クラスの授業でも、先生の質問に対する答えを、英語でどう答えたらよいか、英語力に問題がありました。自分が今までやってきた英語の学習は無駄だったのではないかと、今まで思えてしまい、悔しくてたまりませんでした。

しかし、そうした混沌とした思いの中、研修中に実施されたアクティビティやクラスでの討論を通して、「楽しむ」という感情は言葉や外見が違っても共有しうるということに気づきました。それ以後、とても安心しました。

これで海外研修は終わりましたが、私はここからがスタートだと思えます。今よりもっと英語を勉強して、改めて海外に行きます。そして今度は言葉の壁を気にせず、自分の表現したいことを自由にできるような、今回の海外研修で学んだことを忘れずに、これから更に努力していく決意です。

【おわびと訂正】

樹妙だより八月号の職員紹介にて、誤りがありました。児嶋敦子先生の職名は図書館長、教科は社会科です。おわびして訂正いたします。



平成28年度 樹徳高等学校生徒募集要項

募集定員と募集コース	男子部 280名	総合コース 大学進学コース 特別大学進学コース スーパーサイエンスコース	J組	【出願資格】 ①平成28年3月 中学校卒業見込み者 ②本校の教育方針に賛 同できる者
	女子部 180名		S組	
	合計 460名		K組	
			SS組	

■入試日程

入学試験区分	推薦入学試験	学業奨学生 入学試験	一般入学試験	ステップアップ 入学試験
募集区分	単願 J組推薦 K組推薦 SS組推薦 スポーツ推薦	併願	単願・併願	単願・併願
出願受付	平成27年 12月17日(木) 12月18日(金) 9:00~16:00	平成27年 12月17日(木) 12月18日(金) 9:00~16:00	平成28年 1月22日(金) 9:00~16:00	
試験日	平成28年 1月9日(土)	平成28年 1月9日(土)	平成28年 1月30日(土)	
合格発表日	1月18日(月)	1月18日(月)	2月9日(火)	
入学手続日	1月23日(土)	3月16日(水)	単願:2月27日(土) 併願:3月16日(水)	
単願切替手続日	—————	1月23日(土)	2月27日(土)	
出願書類	入学願書・調査書 中学校長の推薦書	入学願書・調査書	入学願書・調査書	1/9の受験票 再受験願
出願料	15,000円	15,000円	15,000円	無料
備考	本校の教育方針を理解し推薦 (単願)入学を希望する人の試験 です。	他校との併願ができる試験で す。	主に併願者のための 試験ですが、単願者も 受験できます。	学業奨学生入学試験 の受験者がさらに 上位の合格種別を目標 して再受験する試験 です。
	※入学試験の結果、奨学生となった者には奨学金が給付されます。 (別記合格種別・奨学生種別参照) ※奨学生の更新審査は学期ごとに行われます。			

■試験方法・科目 (各入学試験・各教科とも、100点満点・50分間)

入学試験区分	推薦入学試験	学業奨学生 入学試験	一般入学試験	ステップアップ 入学試験
試験方式	マークシート方式	マークシート方式	記述方式	
試験科目	国・数・英	国・数・英・社・理	国・数・英・社・理	
面接試験	あり	なし	なし	

一貫校 中学校 だより

◆NHK全国学校 音楽コンクール 群馬大会

今年、八月八日にベシア文化ホールで行われました。県内の児童生徒が参加するこの大会に、今年度も出場し、会場で沢山の感動を伝えることができました。生徒の感想を紹介しましょう。

音楽部部长 関口未羽
群馬県合唱コンクールで悔しい思いをしてから約二週間。本当にあつという間でした。一音入魂と一心同体を合い言葉に必死に練習をし、時にはあまりの悔しさに涙を流す部員もいました。結果は銅賞ということですが、あまり嬉しい結果ではありませんでしたが、今までの練習の成果を十分に発揮し、自分達の中で最高の演奏ができたので悔いはありません。

最後に、応援に駆けつけて下さった先生方、共に笑い泣いて下さった先輩方、

どんな時も支え合いながら頑張った仲間、顧問の石内先生、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

◆SSL2015



八月十日〜十二日に「SSL(サマースペシャルライニング)2015」が実施されました。これは、更なる学力向上を目的とした優待合宿です。中一〜中三までの生徒を対象に、高山村にある県立北毛青少年自然の家で講義が行われ、生徒は熱心に学習に励みました。参加生徒の感想を紹介

介します。

○普段高校生の授業をしている先生方が教えてくれて貴重な経験になりました。勉強だけでなくオリエンテーションも面白かったです。また、普段交流しない他のクラスメイトとも一緒に授業が受けられて、交流を深められました。勉強はもちろん、運動や生活面でも有意義な時間が過ごせて、来年も参加できよう頑張りたいと思いました。

一年一組 花房 結音



○今回のSSLで、「文武両道」や「集団行動」がすべて一石十鳥くらいの価値があったと思います。特に、自学の時に積極的に先生や友達に質問できたので、勉強がはかどりました。授業を受けたことのない先生とのコミュニケーションもとれてとても良かったです。また来年も行

けるように一生懸命勉強に励みたいです。

二年二組 浅沼 雄登

○今回の合宿で色々な体験ができました。夜の自習では、後輩に教えたたり、同級生に教わったり、先生に質問したり、楽しく学習ができました。自分で考え、悩み、質問して、理解する。この事を通して、「なんて楽しいんだ」「勉強って面白い」と思いました。また、自分から質問していくこと、難しい問題を理解することがすごく楽しかったです。「W i n t e r S p e c i a l L e a r n i n g」に期待しています。とても充実した楽しい三日間でした。

三年一組 凶子田 衣純

◆夏季総合体育大会 結果報告

◎ダンス部
〈市大会〉 最優秀賞・技能賞・構成賞
〈県大会〉 アイデア賞

◎陸上部
〈市大会〉

井上ひなの(共通女子砲丸投優勝)
赤坂匠(男子三〇〇m)二位
赤坂匠(男子一五〇m)四位
長尾光生(男子三〇〇m)五位
深澤宏輔(二年男子一五〇m)二位
加川大翔(二年男子一五〇m)三位
今泉雄太(二年男子一〇〇m)三位
〈県大会〉
深澤宏輔(二年男子一五〇m)二位

◎卓球部
〈市大会〉
高橋一斗(三年男子個人)五位
山田翔貴(二年男子個人)三位
団体Aチーム三位

◎水泳部
〈市大会〉
山崎真理夏(二〇〇m背泳ぎ)二位
山崎真理夏(一〇〇m背泳ぎ)四位
川中子琢巳(二〇〇mバタフライ)三位
川中子琢巳(二〇〇mバタフライ)四位

◎柔道部
五十嵐巧(男子73kg級)三位

平成28年度
第2回学校説明会
10/3(日) 9:00～

第2回樹徳中学校モギ試験
および入試相談会
10/10(土) 試験科目：国語・算数

お問い合わせ・お申し込みは、
前日までにお電話で。 Tel 0277-45-2257

幼稚園だより

新制度と 保育の質の向上

子ども・子育て支援新制度がスタートして五ヶ月が経過しました。群馬県では、私学助成（七三園）、施設型給付園（九園）、幼保連携型認定子ども園（十四園）、幼稚園型認定子ども園（二十七園）となっております。本園は、私学助成の幼稚園として、今後は幼



稚園の継続か、施設型給付園・認定子ども園を選択するかを検討しています。少子化をはじめ、共働き家庭の増加、地域のコミュニティケーション力の弱体化等、社会状況の変化への対応や、保護者負担（私学助成・施設型給付）等に影響する助成金についても考慮しなければなりません。

この新制度への移行を検討するとともに、今は「生涯にわたる人格形成の基礎を培う」幼稚園としての機能・充実（質の向上）に向けての努力が一層重要となっております。この夏休みは、保育の質の向上と、新制度理解について、職員（教諭）研修に取り組みました。

熱く燃えた！ 夏の思い出

今年度の募集状況を踏まえ、幼稚園の継続か、認定子ども園（幼稚園型）への移行かについて、本園の実態を把握し検討をしています。そして、何

よりも今大事なことは、在園児はじめ、これから入園する子どもたちの教育に全力を尽くすことや、義務教育の基礎をしっかりと身につけられるよう、健やかな成長につながる保育の質の向上（充実）です。

必要なのは、保育者個人の資質レベルに留まらず、同僚が経験年数の違いを超えて互いに支え合い、分かち合い、導きあい、ともに成長しながら専門性を高め合うことだと考えています。また、保育者一人ひとりが主体的に、同僚保育者の保育実践を見て学び、語って考え、子どもの姿に学びながら、共同体として「和」のチームワークを大切に、質の高い保育の実現に努めることです。そして、保護者や地域から一層信頼される幼稚園をめざして、教職員一同全力で取り組んでいきたいと思えます。

猛暑盛りの八月七日（金）から始まった桐生祭り。今年も「子どもみこし」や「まゆ玉転がし」に参加しました。七日は園児全員が参加して、元氣いっぱい神輿を担ぎ、暑さを吹き飛ばしました。八日は、年長さんが「まゆ玉転がし」に参加して頑張りました。七夕飾りでは、三等賞を受賞するなど、素晴らしい思い出ができました。

おめでとう！

夏休み子供書道展（桐生仏教会）において、特別賞（二名）、秀作（五名）の計七名が入賞し、二十三日には有鄰館で表彰式が行われました。夏休みに登園し、年中・年長さんが必死に取り組んだ書道。手や顔に墨を付けながらも、集中して頑張りました。全員の作品「の」が有鄰館（展示場）で輝いていました。入賞した皆さん、おめでとうございます。

幼稚園長 瀬谷 茂



じょうずにかけるかな

入園願書

受付開始

九月一日より入園願書の受付が始まりました。お早めのご提出を！

◎募集人員

・満三歳児（二歳以上） 一〇名

・年少 四〇名

・年中・年長 若干名

◎入園願書は直接ご来園下さるか、お電話にてお問い合わせ下さい。

◎いつでも見学できます。水曜日（遊戯教室）も開放しておりますので、ぜひお越しください。

◎お申し込み・お問い合わせは平日8時30分～18時30分に。土曜・日曜のご来園は事前にご連絡ください。

お問い合わせは
0277-53-5572

9月(正精進)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	火	始業式 大掃除 就職推薦開始 後期教育実習オリエンテーション	始業式 防災訓練 挨拶運動	新入園児願書受付開始
2	水	後期教育実習開始 珠算練習開始 マイトリー基金拠金日	市街地清掃② 課題確認テスト	避難訓練(地震) 英語(全) 文字・数(年長)
3	木		中2職場体験(～4日)	職場体験学習(樹徳中4名 ～4日) 体育(全) 文字・数(年中)
4	金	校内基礎学力テスト② 授業料納入日		保育料納入日 プール写真撮影
5	土			
6	日	第23回聖歌隊定期コンサート	地区別入試説明会(伊勢崎・前橋)	
7	月	LHR	お役に立とう週間③ 挨拶運動	リズム(全)
8	火	生徒募集要項説明会(中学校教員対象)		群私幼東部地区研究委員会
9	水	生徒募集要項説明会(学習塾対象) ITS研修		英語(全) 文字・数(年長)
10	木			体育(全) 文字・数(年中)
11	金			プール納め 8・9月生まれお誕生会
12	土	中学生1日体験入学③	入試パワーアップ授業①	
13	日			
14	月	男女合同朝礼 教科主任会		リズム(全)
15	火	交通安全マナーアップ運動②		
16	水	就職選考(入社試験)開始 献血(～18日)		英語(全) 文字・数(年長)
17	木			体育(全) 文字・数(年中)
18	金		授業参観②	
19	土		入試パワーアップ授業②	
20	日			
21	月	敬老の日 第32回吹奏楽部定期コンサート	敬老の日	敬老の日
22	火	国民の休日		
23	水	秋分の日		
24	木			英語(全) 文字・数(年長) オーストラリアからの高校生との交流会
25	金	私学教科研修(国語 於本校・一貫校)	私学教科研修(国語 於本校・一貫校)	園外保育 体育(全) 文字・数(年中)
26	土	進路学習会		
27	日	全商情報処理検定		
28	月	LHR 珠算競技(～30日)	早朝自主学习(～10月6日) 挨拶運動	
29	火			リズム(全)
30	水	出欠統計 女子制服アフターサービス		

※1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

発行責任者 野口 秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく